

チャリティイベントのお知らせ

内館牧子講演会 お食事付き

「自分らしい生き方」

日時 2017年10月27日(金)  
15:30~17:00 講演会 17:00~ ディナービュッフェ  
料金 全席自由(食事込み) 5,000円  
会場 斎苑(地下鉄南北線北四番丁駅より徒歩3分)  
定員 300名



お問い合わせ  
お申込み

電話・FAX・メールでお申込みの方にはご自宅までチケットが届きます! (ホームページからも申込み可)  
社会福祉法人 仙台いのちの電話事務局  
電話 022-718-4401 FAX 022-718-4431  
仙台いのちの電話 検索

高嶋ちさ子  
12人のヴァイオリニスト  
コンサート

日時 2018年  
2月12日(月・祝)  
14:00開演  
料金 全席指定  
S席6,000円  
A席5,000円  
(11月発売開始)



会場 電力ホール  
お問い合わせは仙台いのちの電話事務局へ

仙台いのちの電話チャリティー

*l'atin  
marché*

2017 10/7(土) 10:00~14:00  
藤崎サンモール一番町側にて

ミニガーデン(フラワーポット、グリーン)  
パスタやパスタソース 文具や雑貨  
林産物や木工品 オリジナルエプロンなど

仙台いのちの電話後援会

編集後記

今年1月、林義子先生の講演会後に、出村和子先生との対談を企画しました。これは、仙台いのちの電話開局35周年の今、「もう一度原点を見つめてみよう」という思いから両先生にお願いし、実現したものです。対談の中で語られた「世の中にいろんな形の電話相談があるけれども、いのちの電話のスタイルは他に類がない」との両先生の言葉や、私達相談員に温かいエールを送ってくれた数々のお言葉が胸に響きました。

また、お二人の先生は、美智子皇后様にもお会いしてお話されたことがあるそうです。美智子様は「地味な仕事です」と受けとめられ、そしてその価値を認め、労をねぎらってくださいました。

この広報紙も次回12月で100号となります。皆様、今後共々よろしくお願い申し上げます。(M.M)

社会福祉法人 仙台いのちの電話

事務局 〒981-8691 仙台北郵便局 私書箱26号  
http://sendai-inochi.jp/org/

発行人 飯岡 智  
編集 仙台いのちの電話広報委員会 Tel.022-718-4401  
印刷 株式会社 市瀬 Tel.022-232-3520



仙台いのちの電話

相談電話 022(718)4343  
インターネット相談 http://www.inochinodenwa-net.jp/  
いのちの電話ネット相談 検索  
フリーダイヤル 0120(783)556  
(毎月10日)

24時間受信  
年中無休

東京いのちの電話 理事 林 義子さんの言葉より

人と人の関わりが 希薄で  
いのちの価値が 軽視される  
今という 時代だからこそ  
共に生きるということの意味が  
大切になってきます。

一人の いのちが  
一人の いのちに よりそうように

Doing(何かをしてあげる)を越えて  
Being(そばにいてよりそう)こと

そういった 関わりを通して  
いのちが いのちによって 生かされ  
いのちのそのものの価値や尊さが  
高められていくのではないかと考えます。

共に生きるということの 意味が  
その中に 示されているような  
気がしています。

Contents

心の診療所から(心の医療の現場).....2  
相談員随筆“想い”.....3  
自死遺族支援“すみれ便り”.....3  
特集“支え合いともに 歩みながら”..4~5  
資金ボランティア.....6~7  
活動報告.....7  
チャリティイベントのお知らせ.....8

## ～仙台いのちの電話開局35年に寄せて～ こころの医療の現場を振り返って

仙台いのちの電話 専門委員(精神科医) 千葉 健



1980年代、仙台いのちの電話が開設された頃の精神医療を振り返ると、宮城県に大学病院と国立仙台病院にだけ、総合病院の一角に精神科外来と入院ベッドがありました。入院施設があるのは名取の県立病院と民間の精神科専門病院のみで、外来専門の精神科の診療所は以前に唯一あったのですが廃院しており、漸く、新たに神経科内科医院と称してこころのクリニックが開院され始めて、数か所に誕生したところでした。

総合病院に或る日のこと、うつ病の方が来院しました。半年以上も前から、家に閉じ籠り、不眠、食欲不振が続き、早朝に離れの部屋で自死未遂で発見され、家族が慌てて連れてきた時は頸部に真新しい縄の跡が残っていました。精神科の門をくぐるのは本人も、家族も余程の覚悟が必要な時代だったのです。当時、入院病床も目立たない場所にひっそりと建てられていたり、専門病院は街の郊外が多かった時代です。

時が流れ、全疾患の入院ベット数の主流を精神障害者が占めていたことや、入院日数が長い年月に至るといった実態が患者さんの人権上で世界的問題となり、徐々に改善されていくのに時間を要しました。そこで、精神医療は患者さんが隔離されるのではなく、集中的に短期間の入院治療を経

過した後は早期に地域や家族の元に戻すことに積極的に取り組んでいったのです。

当然ながら、それには本人が社会で暮らすための受け皿が必要となりますので、本人を支えるのみならず、家族を地域で支えるシステムが必要になります。

21世紀に入り、自立支援法と障害者総合支援法以来、それまで本人や家族が集まる場として、また基本的な生活リズムや対人関係を含めた日常生活技術を身に付けるための精神科デイケアや、家族の様々な悩みを話し合える家族会、様々な作業を通して社会的自立を目指す生活訓練施設に加えて、最近では就労に向けて直接に支援する就労移行及び、継続支援事業所等の施設が続々、増えてきています。

次の課題としては、これらの多くの福祉関連施設と各医療機関とが互いに情報交換し合い連携していくことが求められています。従って、患者さんにとっても大事なことは、最小限の必要な服薬とどう上手く付き合っていくか、困った時に何時でも出来るこころの相談に加えて、就労を含めた自立のための生活支援の場の提供があることにより、日々、目標を持って過ごすことです。

## 想



### たまたま読んだ本

この度、いのちの電話相談員に認定され、正式に業務に携われるように成りました。

「傾聴」は、本当に難しいことですね。いまだに苦労しています。自分が前に出ないよう、研修中、充分訓練してきたつもりなのに、ちょっとした言葉を発したために、電話を切られることがあります。余計なことを口にしてしまった様です。反省しきりです。初めて電話を受ける1週間前に、たまたま柳田邦男の本を読んでいました。

新米看護師が、年老いた患者に付き添っていたが、『何も話し

注:柳田邦男「死の医学」への序章 1986年 新潮社

### 35年を振り返って

あの感受性訓練の沈黙の時間から35年の月日が流れようとしています。

相談員になって何年ですか?と問われるのがとても恥ずかしく苦手でした。自分ではいつも長さではないと思っていたからです。先生方の「事柄ではなく気持ちを聴くのです」の言葉を大切にブースに座るのですが、なかなか気持ちに寄り添っていない自分がいて自己嫌悪におちいったりしていました。掛け手の方の気持ちを聴くことはとても難しいことでした。

それでも辞めずに続けてこられたのは同じ志を持つ仲間の支えがあったからだと思えます。慰められ、励まされて次につなげられたのだと思えます。泣きながら誰にも話せなかったことを話してくださり、ここまで話すつもりはなかったのにと明るい

かけることが出来ず、患者さんに手を添えて、ただ話を聴くばかりでした』と婦長に報告したら『それで良かったのです』と言われたそうです。

それを読んでいたおかげで、初めて受けた電話でも、落ち着いて受けることができました。グットタイミングでいい本に巡り合えたものです。それ以来、積極的に本を読むようになり、センターの蔵書に目が行くようになりました。

相談内容に関連したもの、小説やドキュメンタリーものなど、幅広い分野の本があります。一見関係なさそうな本でも、何かしら参考になる箇所が、結構読めてくるものです。なんでも蓄えておけば、いざというとき役立つだろうと思い、センターに行くたびに蔵書を漁っています。

相談員として、スタートしたばかりの70歳の新米です。これからも、世のため、自分のためにも踏ん張らねばと、気持ちだけは高ぶっています。(I・T)

声で電話を置かれたときは私も続けてきてよかったと思う瞬間です。

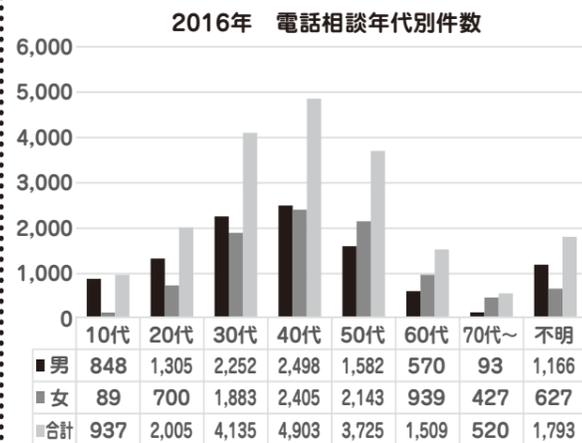
その間に事務局の仕事をしていただいたり、養成にかかわらせていただいたりして、「今ここで」の気持ちを大切にということまなばせていただきました。

また後援会の方々から一つのことを成し遂げる、喜び、楽しさを教えていただきました。

いのちの電話は後援会の方々のご支援がなければ続けられない事なのだ感謝の気持ちでいっぱいになりました。

年を重ねてセンターへの坂道をいつまで通えるかと不安を感じているこの頃ですが、家族の協力に感謝しながら、寄り添ってお話を聞かせていただけるかぎり、自分のためにも、もう少し通い続けてみたいと思えます。(K・S)

## 相談状況(2016年1月～12月)



### 電話相談

◇19,527件(男10,314、女9,213)  
内、自殺傾向のある相談 2,059件(男907、女性1,152) 受信件数の10.5%  
\*フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」(毎月10日 8時～翌朝8時)  
仙台受信件数 760件(男415、女345)  
全国いのちの電話受信件数 30,387件(男性16,547、女性13,840)

### インターネット相談

◇498件(男179、女319)  
内、自殺傾向のある相談 252件(男性89、女性163) 受信件数の50.6%  
全国受信件数 2,734件



## すみれ 便り No.7

### 「今、ここ」から「明日へ」

すみれの会は2006年10月に始まりました。今年で11年目になります。電話相談を基盤としている私たちに、どのような形での支援ができるのか。様々な試行錯誤を繰り返し、参加してくださった多くの自死遺族の方たちと一緒に、いのちの電話の「すみれの会」を育ててきました。

電話相談の現場で、私たちは自分の体験したことのない出来事を、相手の感じていることと全く同じには「わからない」のだと体験してきました。それでも、わかりたいと願いつつ「聞いてほしい」という求めに応えてゆくのが「いのちの電話」の関わり方です。問題の答えはその方自身の中にある。私たちはその人が本来持っている力を十分に発揮できるように、心の整理を手伝う。私たちはその気持ちに寄り添う。

一般的に「聞くことしかできなくて」とお詫びの言葉としていわれることがあります。「聴く」ことはそんなにどうしよ

うもないことなのだろうか。私たちの「聴く」ことの原点にあるものは目に見えていることの奥深く、心と心が触れ合うものであらねばならない。生きることを支える聞き方を私たちは求め、実現してゆきたい。死を思うほどの悲しみと困難の中にいる人に寄り添うとは、どのようなことなのかを問い続けた年月でもありました。

自死遺族は普通の人々が普通の暮らしの中である日突然遺族になる。今まで自分とは無縁であった世界に、ある日突然自分がある。どれほどの混乱と衝撃が起こるだろうか。その混乱の中、処理すべきことは押し寄せてくる。気持ちを殺して頭と手を動かさなければならない。私たちは、法的なことも、手続きも、外部との交渉もお手伝いできる立場にはない。けれども、あなたの気持ちを、あなたの気持ちとして受け取って「聴く」器になりたい。今、ここで感じていることをしっかりと抱えなおして、明日に向かって歩む人の心を支えたい。「聴く」ことの力はその人の明日への勇気を支えると思うのです。

※すみれの会:自死で、ご家族や大切な人を亡くされた方のわがちあいのつどい

# 支え合い ともに 歩みながら

『仙台いのちの電話』は35年前、日本で初めてとなる『東京いのちの電話』は46年前にスタートしました。それぞれの立ち上げに関わり、活動の中心となって活躍してこられたのが、出村和子氏と林義子氏のお二人です。『いのちの電話』に寄せるこれまでのご苦労や熱い想いをお二人の言葉を通して紹介します。

お二人の出会いは、「仙台いのちの電話」の立ち上げの相談で出村氏が「東京いのちの電話」の事務局に出向いた折のこと。そこで当時事務局スタッフであった林氏に、初めてお会いしたそうです。その後、出村氏の働きかけで「盛岡いのちの電話」を立ち上げる際などにも、東京の林氏にご支援をいただいたとのこと。

## 仙台いのちの電話 出村 和子氏

仙台いのちの電話を立ち上げる。  
前:仙台いのちの電話理事長。  
現在、弘前学院大学客員教授、仙台いのちの電話理事。

### 立ち上げに到るまで

1980年、YWCAで研修を担当。カウンセリング講座をいのちの電話の相談員の研修に代えて実施。設立には連盟の許可が必要で、研修を受ける人数にも条件があった。研修には80名の応募があったので、出来るかもしれない、と思い立って、東京に通った。研修場所はYWCA。しかし事務局も何も無かったので、移転する青葉荘教会の事務室を借りることに。約6カ月、1カ月につき室料が1万円、光熱費が5000円、計15000円を支払うことで契約。その後、京都での連盟の理事会で、仙台につくるという承認を得、教会の事務室で第1回目の設立準備委員会を開いた。京都の会議で、仙台いのちの電話の設立準備委員会も承認していただいた。

1982年の4月から1期と2期とを一緒にし、全部で130名の相談員で研修した。1982年10月末に、「釜房いこいの家」に全員を集めてロールプレイをし、電話の取り方を実践研修した。そこで、130人の相談員を認定した。

1982年11月1日に仙台いのちの電話が始まった。場所は笹氣先生が提供してくださったグランパレピルの屋上の事務所。先生には屋上の部屋で電話を2つとれるような別室まで自費で作っていただいた。時間は、午後3時から7時までと、午後7時から11時までだった。開局の日には、東京いのちの電話を立ち上げたヘッドカンブさんにもお出でいただいた。

### 相談員としての対応の仕方

いのちの電話が生まれる前からいろんな電話相談があり、その後にもどんどんいろんな形の電話相談がつけられた。けれどもやはり、いのちの電話の理念というのは、ある知識を持っている人が、それを相手に伝えて、これはああした方がいい、こうした方がいい、とかといった助言よりも、とにかくここに聴く誰かがいる、というそういう関わり方で、できるだけ相手が言えるようにしていく。こちらが何か指図をするのではない、ということ。そういう意味では、他の電話の相談と「いのちの電話」では違う意味を持つ。

### 相談員としてのモチベーションを保つには？

モチベーションが低下する時には、やはり仲間のサポートとグループでお互い支え合うということが何よりの支援となる。指導するリーダーや先生方も含めできるだけ大変なことを分かってあげて、支えてあげることが大切。林先生のおっしゃった、関わり。その人たちがいてくれるから私もっていう、そこで支えられるものじゃないかな。仲間同士の関わり、支え合いが何よりの力になる。



## 東京いのちの電話 林 義子氏

カトリック援助修道会会員。  
東京いのちの電話創設期から事務局・ボランティアの研修担当等を経て、現在は理事。

### 立ち上げに到るまで

東京いのちの電話の立ち上げの中心となったのが、ドイツ人宣教師のヘッドカンブさん。来日以来、売春の女性たちの更生のために献身的に活動していた。その後、オーストラリアの電話相談の取り組みを参考に、東京いのちの電話を立ち上げることを考える。ヘッドカンブさんのその考えに自分(林氏)も共感し、準備段階として、宣伝テープ・フィルムを英語から日本語にする作業を手伝った。教会の視聴覚の施設で仕上げてもらい、それからそのテープを持って二人で宣伝に出かけることになった。ヘッドカンブさんがすごいのは、ものすごく大きなバンを持っていて、細い坂を全部詳しく知っていらっしやる。幸いなことに私がフィルム・幻灯機の資格を持っていたので、でっかい幻灯機を車に積んで、二人でプロテスタント、カトリックの教会とか、宣教会とか全部宣伝して歩いた。またたく間に牧師先生たちが集まった。そこで総務委員会というのをつくり、それが最初の組織だった。それから、どこでやるか、ボランティアをどうするか、相談員の養成をどうするか、相談の際の記録用紙はどうするかとか、そういうことをどんどんやっていった。読売新聞が記事にしたところ、500人ぐらいの反応があった。主旨を話して、ボランティアになる方の応募を呼びかけたところ、その時集まったのが250人くらい。多かったが、指導スタッフに恵まれ、充実した研修ができた。開局の日である1971年12月1日の午前0時の電話は、誰がとるかで熾烈な争いとなった。

### 相談活動の意義

ニーズがある事は絶対大切です。問題が複雑になっているし、事件も起こります。どうしてもいのちの電話のように、一人一人が直接人間的なあたたく出会える部分をつくっておかなければならない。そのようなことをみんな望んでいると思います。わたくしはいのちの電話に参加したことによって、お金ではかえられないものが自分のなかに蓄えられました。そのようなことをお互いに確かめあいながら続けることができれば、問題があっても、難しくても続けられるのではないのでしょうか？地味な仕事ですが、振り返ってみると、いのちの電話が本当に社会のためにやってきたことが多いと実感しています。訓練も大切ですが、自分たちのやっていることのプラス面を意識することが必要ではないでしょうか。

### 相談員としての関わり方

わたくしたちは自分の役割から人と関わりやすい。私は母親よとか。そうではなく、林義子が林義子としてかかわること。これで初めて相手に通じる場ができるのではないのでしょうか？相撲のように、何も持たないで、裸一貫でかかわること。それによって、相手にわたしの印象やことばが残り、対等なつながりになるでしょう。自分が自分になることはやさしくないでしょうが、謙遜さが求められることですね。

### 二人の共通する思い

いのちの電話の活動に長い間関わり、常に先頭になって歩いて来られたお二人の言葉に、共通した思いを感じました。出村氏「…正直言って皆さんがいたから私もやってこられた。自分一人の力じゃなく、誰かに支えられているからできたと感じています。」林氏「私が事務局に入った時、いろんな方がサポートしてくれました。その方達の行動とか、やっていることとか、私にとっては学びの連続でした。」お二人共、周りの人々からたくさん支えられ、数多くのことを学ぶことができたことに、感謝の思いを語っておられました。自分がしてきたこと以上に、周りから受け取ったものを謙虚に受け止め、感謝する思いに、お二人のあたたくいお人柄と人間性を感じました。



2016年11月1日～2017年5月31日受付〔敬称略・順不同〕

**ありがとうございます。**  
**皆様のご支援で24時間「仙台的のちの電話」はつながっています。**

**維持・賛助(個人)**

相沢敦子  
相沢光哉  
愛知絢子  
青木利子  
青木葉子  
秋木良子  
新子一哉・元子  
阿部恭一  
阿部洋一  
安藤幹郎  
安部仁  
飯岡智  
五十嵐栄子  
伊豆和子  
泉川久美子  
磯部敏英  
板橋登美  
井上茂  
岩松とし系  
岩上幸子  
上田昌孝  
氏家幸子  
氏家祝子  
薄木理一郎  
海老名せい子  
遠藤和子  
大泉鉄之助  
大友和子  
大友朝子  
大友幸一・玲子  
大沼隆  
大野とめ子  
大山照江  
岡貴恵子  
岡本つな子  
小野公延  
小野寺なつ子  
小野寺友宏  
海鋒明子  
片倉由美子  
鹿股国弘  
鎌田公子  
川嶋伸子  
川嶋伸子  
河本悦子  
菅野清  
菅野孝子  
菊地伊津子  
菊地正剛  
木村ひさ  
葛岡恵美子  
熊谷勝子  
熊谷ひろみ  
来栖幹子  
黒沢繁  
國分振  
近藤文子  
近藤洋子  
金野伸介  
今野まさ子

斎藤智恵  
斎藤啓昭  
齋藤眞  
齋藤義子  
酒井高男  
坂本多香子  
坂本陽一  
坂本瑛子  
佐々木一  
佐々木一  
笹原昌  
佐藤秋夫  
佐藤鮎美  
佐藤和子  
佐藤かち子  
佐藤キコ子  
佐藤綿枝  
佐藤貞子  
佐藤俊一  
佐藤清子  
佐藤艶子  
佐藤寿彦  
佐藤富男  
佐藤宏  
佐藤文子  
佐藤牧人  
佐藤正義  
佐藤三工  
佐藤由利子  
佐藤頼子  
更科玲枝  
篠原瑞枝  
島香美  
嶋田順好  
清水英子  
清水恵子  
清水さゆり  
庄子泰子  
庄子容子  
白石洋子  
白澤幸子  
新宮幸子  
菅原裕典  
菅原慶夫  
菅原俊寿  
鈴木成  
鈴木ハツヨ  
鈴木宏  
鈴木百合子  
須藤さい  
瀬戸さや  
平ツヤ子  
高井恭子  
高橋京子  
高橋雄一郎  
高柳義伸  
武居美津代  
武田久美子  
竹田英子  
竹田啓二  
竹田隆  
竹田登代子

田中忠三  
田中吟子  
田野みよ  
田原静恵  
田部井紀子  
玉手理子  
千葉雅保  
千葉美知代  
出村和子  
照井床子  
松源寺東海本典  
富田敏夫  
鳥崎和子  
永井恵  
成川恵子  
成田浩之  
芳賀盛  
橋本榮一  
畑屋武志  
平賀ノブ  
深野せつ子  
藤岡彰子  
藤原彰典  
星曠夫  
堀江直子  
堀米正子  
本田十三男  
本田登代子  
増井久夫  
枡沢和江  
松枝敦子  
松田成子  
松本幸子  
三浦孝一  
三浦ひろ子  
三澤志郎  
三塚浩一  
宮内昭穂  
宮腰孝  
宮崎てつ子  
村上瑞穂  
最上有司  
八木洵  
山口千鶴  
山口千枝子  
山田貞子  
山本美喜  
山家雪雄  
湯村富美子  
横山義正  
吉田一彦  
吉田淳子  
若生芳子  
渡部昌子  
匿名8名

**維持・賛助(団体)**

昌林寺  
(公財)アタラクシア みやぎ霊園  
医療法人社団 静実会  
(株)ウジエスパー  
(株)エーブイテック

活牛寺  
(株)ジー・アイ・ピー  
(株)こばやし  
(株)仙台放送  
川内印刷(株)  
光洋産業(株)  
国分尼寺  
護勢寺  
米工房いわい(株)88サービス  
笹氣出版印刷(株)  
(株)サトー商会  
(株)サン・ベンディング東北  
四季の料理梅田  
(株)七十七銀行  
シャルトル聖パウロ修道女会  
松音寺  
眞福寺  
(株)清月記  
(株)清建  
社会福祉法人 仙台キリスト教育院  
仙台中央グリーンライオンズクラブ  
大聖寺  
千葉神経科内科クリニック  
U1ゼン同盟デノコードユニオン  
東北電力(株)  
(株)東陽写場  
洞林寺  
徳泉寺  
東日本興業(株)  
文理学院  
(株)北振技研  
松本事務機(株)  
(株)マルタマ  
学校法人宮城学院  
宮城県民共済生活協同組合  
みやぎ生活協同組合  
明川寺  
(株)杜リゾート  
(株)ユアテック  
龍華院 大宮司  
瀧澤寺  
林香院

**一般寄付・その他(個人)**

有田モト子  
岩本幸子  
岡本喜子  
公益財団法人社会表彰財団  
末松 涉  
出村和子  
トウキョウタマチクオヤジ  
博野英二・明子  
匿名3名

**一般寄付・その他(団体)**

オール宮城LCゴルフ同好会  
河北新報社  
聖ドミニコ修道会 中島丁修道院  
一般社団法人生命保険協会  
(社)仙台仏教会  
宮内歯科医院

(学法)宮城学院女子大学  
林香院  
わたしの雑貨&セラピーらべんだあ

**クリスマス・歳末(個人)**

愛知 絢子  
青木 譲  
浅野 弘毅  
阿部 恭一  
阿部 達  
安斉 えい子  
安部 仁  
石田 千恵子  
泉川 久美子  
板橋 登美  
伊藤 直子  
梅津 富美子  
大田 和子  
大友 幸一・玲子  
大友 健行・みつ系  
大沼 セツ子  
大野 昌子  
大場 なほ枝  
大山 照江  
岡本 つな子  
小川 英子  
小野寺 なつ子  
金子 英次  
兼為 美佳子  
加美山 朋  
鴨川 順子  
川嶋 伸子  
菅野 孝子  
菊地 伊津子  
菊地 正剛  
木村 ひさ  
小林 和夫・博子  
権藤 永子  
今野 孝敏  
今野 隆三  
斎藤 かづ子  
斎藤 智恵  
齊藤 啓昭  
齋藤 眞  
酒井 高男  
坂本 陽一  
佐々木 宗一  
佐々木 一  
佐藤 和子  
佐藤 かち子  
佐藤 絹枝  
佐藤 司郎・万里子  
佐藤 清子  
佐藤 富男  
佐藤 豊子  
佐藤 尚義  
佐藤 牧人  
しのん  
清水 英子  
清水 恵子  
庄子 秋子  
庄司 あや子

庄子泰子  
白井泰子  
白石洋子  
白澤幸子  
鈴木 俊寿  
鈴木 宏  
鈴木 百合子  
須田 佐枝子  
関 美和子  
関口 秀和  
平 さき子  
高橋 京子  
高橋 さちよ  
高橋 晴義・洋子  
田野 みよ  
田部井 紀子  
玉手 理子  
千葉 雅保  
千葉 美知代  
照井 床子  
松源寺 東海本典  
富田 敏夫  
鳥崎 和子  
永井 恵  
成川 恵子  
成田 浩之  
芳賀 盛  
橋本 榮一  
畑屋 武志  
平賀 ノブ  
深野 せつ子  
藤岡 彰子  
藤原 彰典  
星 曠夫  
堀江 直子  
堀米 正子  
本田 十三男  
本田 登代子  
増井 久夫  
枡沢 和江  
松枝 敦子  
松田 成子  
松本 幸子  
三浦 孝一  
三浦 ひろ子  
三澤 志郎  
三塚 浩一  
宮内 昭穂  
宮腰 孝  
宮崎 てつ子  
村上 瑞穂  
最上 有司  
八木 洵  
山口 千鶴  
山口 千枝子  
山田 貞子  
山本 美喜  
山家 雪雄  
湯村 富美子  
横山 義正  
吉田 一彦  
吉田 淳子  
若生 芳子  
渡部 昌子  
匿名8名

成田 浩之  
畠山 東平  
早川 二郎  
平賀 ノブ  
深野 せつ子  
深谷 松男・英子  
藤岡 彰子  
堀江 直子  
堀米 正子  
増井 久夫  
松本 幸子  
宮内 昭穂  
むかでや 林ユミ  
村上 瑞穂  
目黒 功子  
茂泉 道子  
最上 有司  
梁川 優子  
山本 美喜  
横尾 ふみ子  
横山 義正  
吉田 一彦  
吉田 淳子

吉田 彌生  
渡 あゆ子  
匿名6名

**クリスマス・歳末(団体)**

(公財)アタラクシア みやぎ霊園  
(株)エーブイテック  
(有)ギアール・サービス  
黒松婦人の会  
穀町保育園  
齋藤歯科医院  
尚綱学院高等学校  
尚綱学院大学附属幼稚園  
株式会社親幸  
(株)清月記  
聖ドミニコ女子修道会  
仙台修道院  
仙台中央グリーンライオンズクラブ  
(株)仙都計器  
(学法)東北学院  
徳泉寺  
日本基督教団 仙台愛泉教会  
日本基督教団 仙台青葉荘教会

日本基督教団 仙台五橋教会  
日本基督教団 仙台川平教会  
日本基督教団 仙台北教会  
日本基督教団 仙台市民教会  
日本基督教団 仙台松陵教会  
日本基督教団 仙台東一番丁教会  
日本基督教団 仙台広瀬河畔教会  
日本基督教団 仙台広瀬河畔教会 婦人会  
日本基督教団 仙台ホサナ教会  
日本基督教団 仙台北三番丁教会  
文理学院  
宮城学院女子大学キリスト教センター  
みやぎ生活協同組合  
明川寺  
陽雲寺  
瀧澤寺  
瀧澤寺  
(宗)輪王寺

**募金カン(個人)**

大泉 鉄之助  
佐藤 かち子

かまどや大衡店  
(学法)東北学院  
GTサポート(株)  
(学法)宮城学院女子大学

**イオン幸せの黄色レシート**

富谷イオンで  
キャンペーン。  
レシート投函金額は  
1,155,578円で  
11,500円の商品券を  
いただきました。

**仙台的のちの電話**

林義子公開講演会会場募金  
センター内募金  
仙台的のちの電話後援会  
仙台的のちの電話後援会イベント

**募金カン(団体)**

宮内歯科医院  
**チャリティ自販機**

# 活動報告

- 2016年**
  - 12月4日 特別研修会 講師:大西連 演題「僕が今一番伝えたいこと」(センター会議室)
  - 12月19日 インターネット相談継続研修 講師:佐藤静
- 2017年**
  - 1月22日 公開講演会 林義子(仙台市シルバーセンター)
  - 1月23日 いじめ相談研修
  - 1月24日 河北新報下期寄託金贈呈式
  - 2月6日 ヤングテレホン運営会議
  - 2月25・26日 一日研修会 講師:齋藤眞
  - 3月12日 ボランティアリーダー研修 講師:末松涉
  - 3月18日 イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン贈呈式
  - 3月20日 インターネット相談継続研修 講師:國分振 千葉健
  - 3月23日 理事・評議員会
  - 3月28日 42期相談員認定式
  - 4月1日 44期相談員養成講座開講式
  - 4月4日 福島寄り添いFD研修
  - 4月18日 みやぎスマイル基金贈呈式
  - 4月24日 共同募金贈呈式
  - 5月30日 宮城県警「相談機関ネットワーク連絡会議」
  - 6月4日 35周年記念のつどい(斎苑)
  - 6月23日 公開講演会 末盛千枝子(仙台市シルバーセンター)



2016年12月4日 特別研修会 大西連氏



2017年6月23日 公開講演会 末盛千枝子氏

- \* 自死遺族支援「すみれの会」月2回 第1土曜日 第3水曜日
- \* [自殺予防いのちの電話]毎月10日実施(24時間フリーダイヤル)
- \* 無料法律相談とこころの無料相談会(仙台市委託事業)月1回
- \* 定例会議(毎月)
  - 常務会 運営委員会 研修委員会 専門委員会 ボランティアリーダー会
  - グループ代表者会
- \* 随時開催 研修企画会 調査研究会 広報委員会 養成研修部会
- \* フリー学習会(月2回)
- \* 相談員継続研修(18グループ 月1回)
- \* 後援会関連(随時開催)
  - 後援会役員会 チャリティイベント実行委員会 いのでんマルシェ打ち合わせ会